

分科会Ⅱ 第2分科会

テーマ：「郷土を愛し、郷土に誇りを持てる生徒の育成をめざした道德教育
～中心発問を通して～」

提 案 者	呉市立音戸中学校	教 諭	磯方 源太
司 会 者	呉市立倉橋中学校	教 諭	古本 俊幸
記 録 者	呉市立呉中央中学校	教 諭	松野 志保
指導助言者	広島県北部教育事務所	指導主事	塩田 佐恵

1 はじめに

平成 30 年全国中学校道德教育研究会において呉市立中学校教育研究会道德部会（以下、呉市道德科部会）は、「日本遺産の教材化に向けての取組～呉市道德部会「チーム呉」の取組を通して～」を発表した。この研究は、平成 28 年 4 月に「鎮守府 横須賀・呉・佐世保・舞鶴～日本近代化の躍動を体感できるまち～」として、文化庁から日本遺産の認定を受けた文化財をテーマにした教材（以下、「日本遺産を題材とした道德学習プログラム」）の作成に取組んだものである。

呉市では学校教育推進のキーワードである「小中一貫教育」と「協働」を踏まえて、学校単独ではなく、各学校の道德推進教師や道德の授業づくりに関わる教員で構成される呉市道德科部会を中心として、効果的な指導方法の工夫や改善、教材の開発・共有など、道德科の授業の充実を目的とする取組を協働的に実践している。

2 研究のねらい

近年急速に進むグローバル化に伴い社会が大きく変動する中で、自らが生まれ育った郷土への関心が希薄になり、子どもたちが郷土とのつながりを見失いがちな状況も見受けられる中で、呉市の「令和 2 年度『呉の学校教育』の充実のための取組」では、「豊かな感性や郷土を愛する心の育成」が設定された。これを受けて呉市道德科部会では、令和 2 年度から研究主題を「主体的によりよく生きる力を育む道德教育～議論する道德科の授業を通して～」と設定し、『日本遺産を題材とした道德学習プログラム』の実践や『呉の道德自作資料集』等の活用、実践などの取組を行ってきた。さらに呉市では令和 2 年度から小中一貫教育の重点として「教科等の本質に迫る『考える授業』づくり～小中教職員で進める授業改善！～」を設定し、「発問は、児童生徒の主体的な思考を促し高める」という考えのもと、「発問の工夫」について各学校の担当教員を中心に研修を進め、取組を呉市全体で実践している。

そこで広島県中学校道德教育研究会分科会の発表に向けて、「呉市道德科部会が作成した呉市独自の『地域教材』を活用し、『中心発問の工夫』を通して、生徒が主体的に考え学び合い、議論する道德へと授業改善を図ることで、『郷土を愛し、郷土に誇りを持てる生徒』の育成ができるであろう」と研究仮説を立て、研究主題は次の通り設定した。

「郷土を愛し、郷土に誇りを持てる生徒の育成をめざした道德教育～中心発問を通して～」

3 研究の内容

(1) 呉市道德科部会での研究授業の推進

呉市道徳科部会では次の日程で授業研究の取組を継続して行っている。

5月	総会	・部会の方針，年間計画の確認 ・各ブロックの研究授業校の決定及び授業内容の協議
8月	部会	・模擬授業の実施 ・研究協議，指導主事等からの指導助言
10月	研究授業	・各ブロックの研究授業 ・研究協議，指導主事等からの指導助言
2月	総会	・各ブロックの研究授業の成果発表

5月に開催される総会で部会の方針や年間計画を確認した後，隣接する学校毎に3つのブロックに分かれて研究授業校を決定し，主題・教材の解釈と授業内容について協議を行っている。その後，授業者を中心に学習指導案を作成し，8月に開催される部会で部会員が生徒役になり模擬授業を行い，模擬授業後の協議で出た改善案を基に学習指導案を修正し，10月に各ブロックの研究授業校において研究授業を行っている。研究授業後の協議は，各ブロック共通の協議の柱を基に行い，指導主事等の助言者から指導助言を受け，次年度の研究につなげている。



写真1 模擬授業のようす



写真2 研究授業と研究協議のようす

呉市道徳科部会で実施している研究授業に向けての協議を行うときには「主題解釈・教材解釈シート」を活用している。呉市道徳科部会では「発問の工夫」を「主題にせまる発問の設定」と定義し，主題にせまる発問を行うためには「主題解釈と教材解釈の深化」が必要であると考えた。そこで広島県西部教育事務所宮田知典指導主事を講師として招聘し，「主題解釈と教材解釈」についての講話をいただき，「主題解釈・教材解釈シート」を紹介していただいた。「主題解釈・教材解釈シート」を活用することで全員が共通の視点で主題解釈と教材解釈を行っている。

主題解釈・教材解釈シートの項目は次の6つである。

- ① この主題はなぜ大切？
- ② この主題の難しさは何？
- ③ 難しさを乗り越えて大切にしたいのはなぜ？
- ④ 学習指導要領にはどのように記載されている？
- ⑤ 教材から本時の主題を焦点化すると？
- ⑥ ⑤を考えるためには，教材のどの部分が大切？それはなぜ？

①と②と⑥については，自分の考えをグループで交流した後に，再度自分の考えを記述する。主題と教材の意義を，言語化することで曖昧だった部分が明確になり，他の教員の考えを聞くことで，主題と教材の大切さを多面的・多角的に捉えることができる。

[0] 今回の授業の主題 《 》			
[1] 主題解釈 : この主題を学ぶ意義を捉えよう			
① この主題はなぜ大切？		② この主題の難しさは何？	
ア 自分なりに考えて	イ 他の先生と話し合っ	ア 自分なりに考えて	イ 他の先生と話し合っ
③ 難しさを乗り越えて大切にしたいのはなぜ？		④ 学習指導要領にはどのように記載されている？	
(1)内容項目の意義には		(2)指導の要否には	
⑤ 教材から本時の主題を焦点化すると？		⑥ ⑤を考えるためには，教材のどの部分が大切？それはなぜ？	
ア 自分なりに考えて		イ 他の先生と話し合っ	
[2] 教材解釈 : 教材のどこを用いて学ぶの捉えよう			
ア 自分なりに考えて		イ 他の先生と話し合っ	

図1 主題解釈・教材解釈シート

(2) 「日本遺産を題材とした道徳学習プログラム」の活用

「日本遺産を題材とした道徳学習プログラム」の中学3年生を対象とした道徳科教材「一枚の絵」で授業研究を行った。道徳科教材「一枚の絵」の概要は次の通りである。

「一枚の絵」

成人式を機に開かれた同窓会で、故益川進さんの絵について思い出した若者たち。世界で活躍した益川さんが亡くなる5年前、実に50年ぶりに呉に帰ってきてこの絵を描いたことについて知ることを通して、郷土愛について深く考える姿を描いたストーリー。



図2 夏の呉港中央棧橋（益川進氏作）



写真3 益川進さんの仕事風景

(3) 研究の検証

- ア 生徒の事前事後のアンケート
- イ 個々の生徒の記述

4 研究の実際

(1) 「日本遺産を題材とした道徳学習プログラム」の活用の実際

今年度7月に、全市中学校第3学年で授業研究を行った。その内一校の授業研究の様子を紹介する。

ア 内容項目 C-(16) 郷土の伝統と文化の尊重, 郷土を愛する態度

イ 主題解釈・教材解釈シートの記述例

- ① 自分の心の拠り所である故郷を愛しむことは、自己を肯定することに繋がり、このことから生じる地域貢献意欲は、故郷の明るい未来を予見させるから。
- ② 故郷に誇りをもてる要因や、自己を確立するための大切な場所であることを気付かせること。
- ③ 自己肯定感と地域貢献意欲の増進につながる一助となるから。
- ④ (省略)
- ⑤ 益川さんの故郷への想いに焦点を当てる。
- ⑥ 益川さんが晩年になって故郷の絵を描き、その絵を母校に寄贈した理由。

ウ 本時のねらい

益川進氏の生き方を知り、郷土を愛し大切に思う心について考えさせ、郷土のために貢献したいという実践意欲を培う。

エ 本時の展開

段階	学習活動	主な発問と予想される生徒の心の動き (○：主な発問, ◎：中心発問, ●：補助発問)	指導上の留意点
導入	1 事前のアンケート「自分の故郷にどんな想いをもっていますか。」の回答を共有する。	○ 故郷への想いと関わり方について考えを深めていこう。	
	2 益川さんの絵を鑑賞する。	○ どこ(何)を書いた絵だと思いますか。	○ 絵を教室に掲示する。
展開	3 教材「一枚の絵」を読んで話し合う。	○ 世界的に活躍した益川さんが、晩年になり50年ぶりに、帰郷し呉の絵を描いたのはなぜだろう。 ● 校長先生の「呉が日本遺産にならなかつたら、ちがうのかな。」という言葉にどのように答えますか。 ◎ なぜ、益川さんは、この絵を母校に寄贈したのだろう。 ・ 自分たちの故郷である呉に愛情をもち、呉のことを語る大人になって欲しいという願いから。 ・ 自分が身に付けた技術や名声が、後輩の夢や希望の原動力の一助になって欲しいという願いから。	○ 益川さんの「故郷への愛情」に気付かせたい。 ○ 自分にとっての郷土愛について考えさせる。 ○ 郷土愛について自分の言葉で表現させる。
	4 自分が「一枚の絵」にしたい場所・人・ものについて考える。	○ あなたにとって残したい「一枚の絵」は何だろう。故郷の場所・人・もの等から考えてみよう。また、その理由も考えよう。	○ 「一枚の絵」にしたい場所・人・ものとその理由を考えることで道徳的価値を深めさせたい。

(2) 研究の検証

ア 生徒の事前事後のアンケート

授業の前後で、生徒の郷土への想いの変化をみとるため、以下の項目でアンケートを実施した。図3に、全市内中学校の結果を示す。

- ① 故郷に「誇り」をもっていますか。
- ② 故郷の役に立つようなことをしていますか。
- ③ 将来、故郷の役に立ちたいと思いますか。

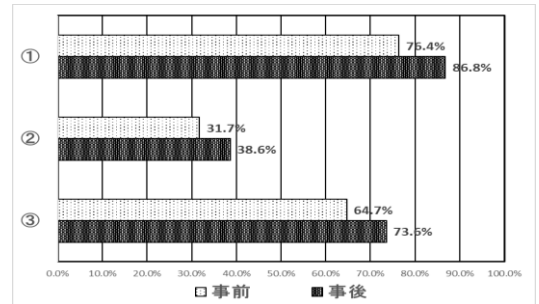


図3 アンケート結果（令和3年度7月に実施）

図3から、学習後、「故郷に「誇り」を持っている生徒」は10.4p、「故郷の役に立つようなことをしている生徒」は6.9p、「故郷の役に立ちたいと思っている生徒」は8.9p増加した。

イ 個々の生徒の記述

終末の生徒のワークシートの記述には次のようなものが見られた。

（生徒A）「桂ヶ浜と松林」の絵を残したい。自分たちの誇りだからこの絵を見た人に桂ヶ浜について知って欲しい。

（生徒B）「山の頂上からの景色」の絵を残したい。故郷から見える島々や歴史などを伝えたい。

これらの結果から、教師が主題解釈と教材解釈について深化を図ることで、指導の明確な意図をもって授業を行うことができ、生徒にとって中心発問がよりねらいにせまる発問になり、郷土への貢献意識が高まったと考える。また、「日本遺産を題材とした道徳学習プログラム」を用いて授業を行ったことで、生徒がより身近に故郷を感じ、自分が生活する地域をイメージすることができ、「故郷」についての考えを深めることができたと考える。

5 成果と課題

(1) 成果

「主題解釈・教材解釈シート」を活用することにより、指導案の改作を行う教員が共通の視点をもって主題と教材の解釈を行うことができた。自らが考える「主題を学ぶ意義」を今一度考えることで、解釈が不十分だった部分を明らかにすることができた。さらに複数人で主題と教材の解釈を行うことで、新しい視点の獲得や、既存の解釈の深化を図ることができた。

呉市道徳科部会における協働的な研究授業の推進によって授業づくりなどの不安を軽減し、指導力の向上が図れた。各学校一人しか道徳推進教師がいない中で、各校の担当者が集まり、組織的に道徳科の研修を推進していくことの大切さを改めて感じた。

(2) 課題と今後に向けて

「中心発問の工夫」を行ってきたが、「中心発問で主題にせまる」ためには中心発問から逆算した授業設計が重要になる。そこで中心発問に至るまでの補助発問を充実させるための研修や研究を実施する必要がある。

呉市道徳科部会では、「豊かな感性や郷土を愛する心の育成」を目指して取組を進めてきた。この目標の達成のために、「チーム呉」としての取組を今後も推進していきたい。